

○事業所名	板橋区立加賀福祉園児童ホーム		
○保護者評価実施期間	2025年10月10日 ～ 2025年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年11月5日 ～ 2025年11月21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている 取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食事、着替え等の生活面や遊び、集団での活動など、幼児としての様々な経験を積み重ねることができる環境。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児としての発達過程、発達課題に留意した上での、児童各々に合わせた支援。 ・ 環境モデルを念頭におく。 ・ 発達の土台としての身体づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団での支援において、個々の発達状況や目標が異なることを踏まえた計画や取り組みをしていく。
2	種々の機会を通しての家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月3回前後の親子通園。2、3家庭ずつ登園して児童と活動を共にする日も設けている。 ・ 普段、来園できないご家族やきょうだいも参加できる行事（年4回）。 ・ PT、OT、ST、心理士による学習会や面談。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状以上に機会を増やすよりも、都度の保護者との対話の質を上げることを意識する。
3	幼児期における基本相談の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度外の小グループ実施（週1回 親子で参加）。 ・ 弊園の心理士による発達検査。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援と位置づけ、引き続き継続する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	併用児童の増加に合わせた支援のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 併用児について、弊園で行う支援の要点をどこに置くかの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 併用している保育所等への訪問の頻度をあげる。また、そこで先方と話を深められるように、日頃の会議や記録の中で、発達について、こどもについて、支援について等々を言葉にしていくことを習慣化する。
2	職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員自己評価からは、配置基準を満たした職員数であっても「余裕がない」と職員に感じさせてしまう面があることが窺えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員面談。 ・ 支援員、保育士としての望ましい動きを現場（またはビデオ利用）で（実地）研修的に検討。
3	建物の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 築およそ45年。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、修繕。令和7年度中にテラスの石床をクッション素材にする予定。 ・ 安全な環境づくりを常に意識（降園後、幼児の視線の高さで園内を移動する等、具体的なことをしてみる）。